

平成30年度 学校評価報告

草加市立高砂小学校

(平成31年2月9日作成)

| | |
|--|---|
| 1 学校教育目標 あかるく かしこく たくましく | |
| 2 重点目標・努力目標 「輝け、ひとみ 世界が舞台だ高砂の子」 (1) 積極的な生徒指導を徹底する (2) 学級経営を大切に学習指導 (3) 学年で取り組む教育指導 (4) 健康体力の向上 (5) 国際理解教育の推進 | 3 前年度の成果と課題 成果 ○市教委研究委嘱で算数科の研修を進め、高砂スタイルの確立ができた。2月には研究発表会で、多くの方に参観していただいた。 ○各学調結果から、B問題に課題があるため、サタデースクールの際に「学力向上の時間」を設けて課題克服に取り組んだ。担任外も補助に入り、学力向上努めた。 課題 ●幼保小中を一貫した教育に関する研究発表に向け、これまでの取組を整理し、系統性を意識した教育の計画・実践が必要である。 ●生徒指導上の問題が起きた際、報・連・相の体制が十分に機能していない場面も見られた。職員間の共通理解・共通行動の徹底が必要である。 |

| 4 評価表 ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である] | | | | |
|--|------------|--|----|--|
| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 | 評価 | 成果と課題 ○成果 ●課題 |
| I 学校運営に関するもの | ①組織運営 | <ul style="list-style-type: none"> 学校経営目標、方針 校務分掌組織 適所への適材配置 職員会議等の運営 予算の執行・決算、監査等 | B | <ul style="list-style-type: none"> ○学校経営方針が全職員に浸透し、教職員が一丸となって教育活動に専念することで、高砂小の教育が着実に推進できた。 ●職員の入替わりが多く、共通理解・共通行動が徹底されていない場面がみられた。その都度課題を話し合い、校務を遂行してきた。 |
| | ②研究・研修 | <ul style="list-style-type: none"> 研究組織、計画、実施 校内研修の推進 授業改善への取組 校外研修会への参加 人材育成 | A | <ul style="list-style-type: none"> ○「幼保小中を一貫した教育」に関する研究委嘱で、校内での系統性を意識した教育活動が徹底された。1月にはその成果を発表できた。 ●研修教科が複数のため、全体共有が難しく、これまで築いてきた高砂授業スタイルの共通理解・共通行動がとれるよう研究を進める必要がある。 |
| | ③保健管理・安全管理 | <ul style="list-style-type: none"> 保健計画、安全計画 環境衛生の管理 健康観察、安全点検 緊急事態発生時の対応 危機管理マニュアルの作成・活用 | A | <ul style="list-style-type: none"> ○複合施設として、保育園・コミュニティーセンターや学童クラブとの合同避難訓練を実施し、実践的な訓練ができた。 ●いつでも、どこでも子供たちが自ら判断して避難行動ができるようにしていく。 |

| | | | |
|-------------------|--|---|--|
| ④情報管理・施設設備管理 | <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用 | B | <p>○情報管理・施設設備管理について日頃より危機意識をもって取り組むことができた。</p> <p>●使用したものが元に戻されず、活動に支障をきたす場面が見られた。各主任を中心に管理徹底が必要である。</p> |
| ⑤地域との連携 開かれた学校 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校評議員制度の活用 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化 | A | <p>○各PTA行事、地域の祭礼行事等に教職員の積極的な関わりが見られた。今年度より、朝の算数タイムに保護者ボランティアが参加することで、家庭との連携が進んだ。また、地区参集訓練では、消防クラブの児童も参加し、実践的な訓練ができた。</p> <p>●様々な人材が豊富な地域であるが、十分に学校教育に取こめてはいない。学校応援団組織を見直し、地域との連携を図りたい。</p> |
| ⑥幼保小中を一貫した教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・目指す子ども像の実現に向けた取組 ・教育課程の編成 ・一貫教育推進のための組織づくり | B | <p>○毎月1回の中学校区推進会議で、一貫教育の進捗状況を確認した。そして、1月に研究発表を行った。幼保小については、5年を中心に交流活動(学習・給食)が行われ、児童の学びが深まった。</p> <p>●小中間で研修に対する考えや姿勢が異なり、研究を進める難しさが見られた。</p> |

(様式1・小学校用②)

草加市立高砂小学校

| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 | 評価 | 成果と課題 ○成果 ●課題 |
|------------------|------------|--|----|--|
| II 教育活動に関するもの | ①教育目標・教育計画 | <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の編成、実施 ・教育計画の作成 ・教育活動の評価 ・目標、方針の周知 ・授業時数の配当、確保 | A | <p>○全学級、授業時数を確保することができた。</p> <p>○業前活動では、算数・読書の集中月間を設けて学力向上に努めた。算数に関しては保護者の補助が入り、活動も充実してきた。</p> <p>○夏季研修では、各学調考察、問題分析から課題に対する指導法を確認した。</p> <p>●実態に応じた教材開発、意欲を高める授業づくり、考えを深める発問の工夫など教職員の指導力向上が必要である。</p> |
| | ②教科指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・わかる授業づくり ・指導方法の工夫と改善 ・評価、評定の工夫 ・外部人材の活用 | B | <p>○算数・体育で、一貫教育の視点に立った系統性を意識した指導ができていた。</p> <p>●学力向上プランに基づく教科指導の徹底が必要である。</p> |
| | ③道徳教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・全体計画の作成 ・各教科との関連 ・道徳的実践力の育成 ・家庭、地域社会との連携 ・いのちの教育の推進 | A | <p>○毎週1回の道徳を確実に実践し、標準時数を確保することができた。</p> <p>○他校の道徳研究授業に参加させていただき、校内で情報を共有できた。</p> <p>●特別な教科化に向け、情報収集に努める必要がある。</p> |

| | | | |
|-----------------|--|---|--|
| ④外国語活動 | <ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・指導方法の工夫と改善 ・評価、評定の工夫 ・各教科、道徳教育との関連 ・中学校との連携 | B | <p>○ALTと3～6年担任が教材を実際に使いながら、模擬授業を行った。充実した打ち合わせをしながら、楽しい外国語活動を実践することができた。</p> <p>●3～4年担任は、初めての外国語活動であり、ALTが主体で授業を進める場面を多く見られた。</p> |
| ⑤特別活動 | <ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・学級活動、学級経営 ・学校行事 ・児童会活動 | A | <p>○たてわり活動を定期的に計画した。なかよしまつりでは、高学年が主体的に活動することで、低学年も楽しむことができた。</p> <p>●学校行事だけでなく、日常的な各委員会活動の更なる充実を図る必要がある。</p> |
| ⑥「総合的な学習の時間」の指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・指導内容の充実 ・指導方法の工夫と改善 ・評価の工夫 | B | <p>○ゲストティーチャーを招き、体験的な活動をおこなうことで、ねらいを達成することができた。</p> <p>●児童の思いを大切にしたい課題づくりを指導し、ゴールを明確にした学習活動が必要である。</p> |
| ⑦生徒指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・組織的な生徒指導 ・問題行動への対処 ・教育相談、児童理解 ・基本的生活習慣の定着 ・保護者、地域、諸機関との連携 | B | <p>○月一回の子ども支援委員会で、児童に関する情報を共有し、それを指導に生かすことができた。</p> <p>●報・連・相の体制が不十分な場面が見られた。</p> <p>●無言移動など、凡事徹底が不十分であり、教職員間で温度差がある。</p> |
| ⑧キャリア教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・計画の立案 ・指導内容の充実 ・中学校との連携 ・啓発的経験の充実 ・家庭、地域との連携強化 | B | <p>○当番活動をはじめ様々な活動をキャリア教育の視点で捉え、活動することができた。</p> <p>●各学年の実態に応じた資料等を用いながら、キャリア教育の充実を図る。</p> |
| ⑨特別支援教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画、支援計画 ・指導方法の工夫と改善 ・通常学級との交流 ・諸機関との連携 ・校内支援体制の整備 | B | <p>○児童一人一人の実態を把握し、諸機関との連携を行いながら、推進することができた。</p> <p>●十分に実態を把握し、個に応じた個別の指導が必要である。</p> <p>●組織をあげて特別な支援を要する児童への理解、対応の仕方についての研修会をさらに充実させる必要がある。</p> |
| ⑩学校図書館教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・指導計画、支援計画の作成 ・図書館補助員の活用 ・諸機関との連携 ・図書館の整備 ・図書館利用の工夫 | A | <p>○司書教諭や学校司書及び学校応援団のボランティアの方を中心に整理することで、調べ学習を充実させることができた。</p> <p>●親子読書など、家庭を巻き込んだ取り組みを考えていく必要がある。</p> |

| | | | |
|-------|--|---|--|
| ⑪情報教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・教育計画の作成 ・校内研修の充実 ・ICT機器の積極的な活用 ・情報モラル教育の推進 | A | <ul style="list-style-type: none"> ○ICT支援員と綿密に連携、することで、新たな視点から授業づくりを行うことができた。 ○デジタル教科書の有効な活用が見られ、児童の思考を深める授業展開が見られてきた。 ●算数科以外の教科でも積極的にタブレットを活用していきたい。 |
| ⑫人権教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・全体計画の策定 ・各教科との関連 ・人権感覚の育成 ・校内研修の充実 | B | <ul style="list-style-type: none"> ○道徳の教科化に伴い、教職員の人権教育への関心が高まった。 ●人権教育と他教科との関連を見直す必要がある。全体計画を修正していく。 |

(様式1・小学校用③)

草加市立高砂小学校

| 領域 | 評価項目 | 評価の観点 | 評価 | 成果と課題 ○成果 ●課題 |
|------------------|-------------|---|----|---|
| III 特色ある学校づくり | ①礼儀正しい行動の定着 | <ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・組織的な対応 | B | <ul style="list-style-type: none"> ○教師が模範となる行動を示すことで、あいさつなど礼儀の重んじることができた。 ○5ステップのあいさつ目標を設定し、PDCAサイクルで進捗状況を確認しながら取り組めた。 ●家庭・地域と連携し、校内だけでなく、校外でも意識し礼儀正しく行動することができるようにする。 |
| | ②けじめある生活の確立 | <ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・基本的生活習慣の定着 | B | <ul style="list-style-type: none"> ○中学校区で共通の「授業の五原則」を掲示し、学習・生活におけるルールについて指導してきた。 ●人の多く集まる場所や移動の際、年度の後半に私語が多く見られた。職員の共通行動がとれていない。 ●学習規律が徹底されていない学級が見られた。教職員の見回り実施や保護者の参観を促して対応した。 |
| | ③家庭・地域との連携 | <ul style="list-style-type: none"> ・計画の立案 ・環境整備 ・人材の活用 | B | <ul style="list-style-type: none"> ○朝の学習などで保護者ボランティアとして新たに活用することができた。 ●中学校区で家庭学習集中週間を設け実践してきたが、家庭学習の手引きが十分に活用されていない。見直しが必要である。 |

5 総合評価 (学校関係者評価を含む)

- ・「幼保小中を一貫した教育」に関する研究を進める中で、系統性を意識した指導が児童の自己肯定感向上につながった。学年が変わっても、校内の教職員が児童を同じ視点で指導することは、大変有効な手立てであることを研究委嘱から学ぶことができた。
- ・昨年度までは、夏季休業中の研修で、各学調の考察について数値を追うことが中心だった。今年度は、全国学調の問題を教職員が時間をかけてじっくり解き、誤答からどのような指導法が必要なのかを学び、全体で共有することができた。
- ・日頃から教育活動に関心が高い地域性であり、本年度より算数タイム学習ボランティアを募り活動していただいた。また、地域の祭礼行事にも多くの教職員が参加し、地域と学校を結ぶ大きな役割を果たしている。地域主体の地区参集訓練では、充実した事前の打ち合わせを経て、本番を迎えた。年々訓練が実践的になっている。

6 次年度の改善策

- ・ 幼保小中一貫教育の研究発表は本年度で終わったが、今後もその趣旨を教職員に浸透させ、継続しなければいけない。形にとらわれず、中学校の人材を積極的に活用し、児童の豊かな成長につなげたい。また、同じく瀬崎中に進学する瀬崎小とも連携を深め小小間での足並みを確認しながら教育指導を行う必要がある。
- ・ 大規模校では特に小さな一歩を全教職員が共通の考えのもと、徹底する必要がある。そのためには、P D C Aサイクルでの振り返りはもちろん、担任以外の教職員も積極的に先頭に立ち指導をする必要がある。そして、その都度、報・連・相の重要性を確認し、教職員間のつながりを大切にする。
- ・ 人事評価制度を活用し、職員の知識・技能の向上を図る。
- ・ 家庭・地域とともに、子供たちを育てるために開かれた学校づくりのさらなる推進を図る。
- ・ 学校・家庭・地域の役割分担として、何がどこまでできるのかを見直す必要がある。例えば、土日の家庭学習は親子で取り組み学習を見届けるなど工夫はできる。学校応援団の組織見直しを含め、家庭・地域との連携を検討する。